

高齢化社会における共生への示唆(3)：日本の高齢者の ソーシャル・サポート・ネットワークにおける構造的特性

田中 共子*・兵藤 好美**・田中 宏二***

要 旨

高齢者のソーシャル・サポート・ネットワークにおける構造的特性を検討した。選挙人名簿からの確率比例抽出法を用いて、岡山市内の60～80歳高齢者への訪問面接調査が行われた。女性は1994年度(283通回収、回収率56.6%)、男性は1996年度(218通回収、回収率53.4%)の質問紙への回答が分析された。「入院時の世話、借金、仕事の相談、心配事を聞く、慰め、留守宅の世話、物を借りる、散歩や食事、大切に思う」などが可能な相手をネットワーク構成員とし、人数と関係などを尋ねた。ネットワーク関連項目として、現在の人間関係への満足度などを尋ねた。ネットワーク人数には性別や居住形態による差は見られなかったが、質的側面には差が認められた。女性は男性より比較的ネットワーク資源に恵まれていた。男性と独居の高齢者は、サポートネットワークの積極的な開拓と維持が望まれる。サポートの授受関係は総じて互恵的で、高齢者は社会の中でサポート供給者としても期待できる。

キーワード：高齢者、ソーシャル・サポート、ネットワーク構造、性差、居住形態

【目 的】

高齢化社会においては、ますます増える高齢者と相対的に減少していく若年者たちが、共にどのような関係を取り結びながら生きていくのかが注目される。

高齢者は一般に、保護や援助の対象として見られることが多い。しかし高齢者への援助供給源となる対人関係、すなわち「ソーシャル・サポート・ネットワーク」は、社会的弱者という通念の裏書きだけでは割り切れない複雑さを抱えている。例えば現実には、元気な高齢者も増えており、援助を受けるのみならず、高齢者自らが周りの人々の助けにまわることも多々あろうと推測される。また人的な支援や援助を意味する「ソーシャル・サポート」の概念を高齢者に当てはめた場合、「サポート・バンク」を想定することもできるだろう。つまり一生の中では、援助するときもあれば援助されるときもあるわけで、長い目で見れば、高齢者は援助の「貸し」の蓄積に対

* 岡山大学文学部、** 岡山大学医学部、*** 岡山大学教育学部

する、返報を待つ立場とも見なせる。

一方で現実には、世相の変化を受けて、高齢者と子や孫世代との同居が減り、高齢者の独居や、高齢者のみの夫婦世帯が増えている。高齢者が孤立していないか、必要な助けを十分受けているかどうか、福祉的な観点からの社会的関心は高い。心理学的に見れば、ソーシャル・サポートは、「有形無形に人に助けられていれば、ストレス事態に見舞われても、その心理的インパクトが弱まって、心身の健康がより高く保てる」という、ストレスバッファの機能的側面が注目され、研究されてきた経緯を持っている。しかし今日的には、高齢者のソーシャル・サポート・ネットワーク研究には、ソーシャル・サポートの心理的機能の探求という学術的な関心を超えて、社会的課題を受けての現実的な援助策や福祉政策の計画立案の観点からの関心も寄せられる。

本稿では、日本の中規模地方都市に居住する高齢者の持つ、援助資源となる対人関係、つまり高齢者のソーシャル・サポート・ネットワークについて、調査データをもとに明らかにしようとするものである。高齢者はどのような対人関係を持っているのか、援助供給という視点から見たときのネットワークの質と量について検討し、その構造的特性を明らかにしたい。その結果に基づいて、今後の共生的関係の構築に向けた示唆を得たいと考えている。

筆者らはソーシャル・サポートと精神的健康について、これまで高齢女性や中年女性に関する調査報告を行ってきた(野邊・田中、1994；野邊・田中・兵藤、1996)。これらは岡山市を調査フィールドとしている。その結果をみると、中年女性のネットワークは、主に友人と親族から構成されていた。サポート状況に応じて社会関係を使い分けており、多重性が特に高い社会関係、つまりサポートを一手に供給する集中度の高い供給源は、あまり見あたらない。岡山市で育った者ではない、いわば流入者の場合は、親族関係が比較的薄いのが、それを新たな近隣との関係で補完する傾向がある。女性高齢者の場合は、町内会など地域集落への参加が顕著で、しかもそれらの関係はサポートを多面的に供給する、多機能なものであった。両群でネットワークの構成比を見比べると、中年者より高齢者の方が、友人と職場関係のネットワークが小さい。

上記は年代差の比較の便宜のために、女性のみサンプルを用いたものである。男性の場合、職業状況などがより多様と推測されたため、女性を対象を限定している。だが高齢者のソーシャル・サポート・ネットワークの全体的な構造を語るには、当然の事ながら、女性のみならず男性高齢者のデータも加えて論じなければならない。男女の調査結果を併せて見るにしても、対象地域や調査項目などの調査手法があまりにも異なれば、同一の俎上で論じることは困難となる。幸い同項目を用いて、同地域で別途実施された、高齢男性の調査データが存在する。本稿では、その男性高齢者のデータに、先の高齢女性のデータを併せて、再分析を試みたものである。男女高齢者の情報を併せて分析の対象とすることにより、両性に渡る総合的な情報を得ることができ、また性別による比較検討も行える。調査データを統合したことで、個々の調査では見えにくかった、新たな特色を見いだせるという利点がある。

分析としては、まず男女両群のソーシャル・ネットワークの構造を表す、いくつかの指標を算出する。そして男女高齢者間における比較を行うこととする。ただし、高齢者が独居か夫婦世帯か家族同居かという、居住形態によっても、対人関係のありようが相当変わるのではないかと予想される。そのため、居住形態別の比較も重ねて行った。こうして日本の地方都市の高齢者の持っている、ソーシャル・サポート・ネットワークの構造的特性について検討を行った。

【方 法】

調査対象者：選挙人名簿からの確率比例抽出法による、岡山市内の60～80歳の男性408人、女性500人。

調査方法：質問紙(野邊ら、1996)を用いた訪問面接調査。女性は1994年度(283通回収、回収率56.6%)。男性は1996年度(218通回収、回収率53.4%)に実施。

分析項目：属性項目として性別、年齢、居住形態(独居、夫婦世帯、家族同居)。以下のようなサポートを得られる人を、「ネットワーク構成員」とみなした。「入院したとき世話を頼める」「少額の急場の借金ができる」「職場で仕事の相談ができる」「家族の心配事を聞いてくれる」「落ち込んでいるとき慰めてくれる」「留守宅の世話を頼める」「物を借りたり車に乗せてもらったりできる」「散歩や食事を一緒にしている」「大切に思ったり頼りにしたりしている」。合計人数をネットワークサイズとした。なお看病、金銭、留守宅の世話、借用は道具的サポート、仕事の相談、心配事相談、慰めは情緒的サポート、飲食同伴はコンパニオンシップというサポートの機能的な分類と対応している。上記以外のサポートについては、参考までに「その他」として欄を設けて回答してもらった。

またネットワークの各構成員に関して、以下を尋ねた。(1)性別、(2)間柄、(3)年齢、(4)1年間に会う頻度(接触頻度)、(5)1年間の手紙・電話での連絡頻度(連絡頻度)、(6)どちらがより助けるか/①あなた・②ほぼ同じ・③その人(被援助度)、(7)親しく大切な程度/①ふつう～③非常に(親密度)。他にネットワーク関連項目として、(8)現在の人間関係への満足度/①全然満足していない～⑤全く満足の5段階評定、(9)1年間の町内会参加回数、(10)組織・団体参加数。

さらに、加齢による心身の変化を反映する指標として、ADL(日常生活動作能力)・3領域13点満点と、老人モラル・計17点満点(ともに高得点ほど良好)を用いた。

【結 果】

表1に、調査対象者のネットワーク関連項目の評定値、ネットワーク構成員の特性や評価ごとの人数平均、性別・居住形態別の分析結果を示す。表2に、ソーシャル・サポートに関する同様の分析結果を示す。

表1 高齢者のネットワーク構造(居住形態及び性別による分析)

諸変数	全体平均	男性					女性					男女比較(検定結果:F値)			
		全体	独居	夫婦	家族	検定:F値 (df)	全体	独居	夫婦	家族	検定:F値 (df)	全体	独居	夫婦	家族
人数	501	218	14	145	59		283	105	123	55					
%		(100)	(6.4)	(66.5)	(27.1)		(100)	(37.1)	(43.5)	(19.4)					
NWサイズ	6.87	6.81	5.57	6.67	6.71	0.583	6.71	6.30	6.70	7.49	1.925	0.085	0.504	0.004	1.413
(SD)	(3.68)	(3.72)	(4.27)	(3.91)	(3.07)	(2/215)	(3.84)	(3.54)	(3.58)	(3.91)	(2/280)				
NW満足度	3.66	3.54	3.50	3.56	3.51	0.099	3.74	3.68	3.79	3.76	0.495	6.991	0.447	5.313	2.707
(SD)	(0.85)	(0.81)	(1.09)	(0.79)	(0.80)	(2/215)	(0.87)	(0.90)	(0.84)	(0.86)	(2/280)				
近所づきあい	3.51	3.44	3.29	3.52	3.29	0.926	3.55	3.39	3.67	3.60	1.767	1.186	0.086	1.365	1.978
(SD)	(1.13)	(1.15)	(1.20)	(1.11)	(1.23)	(2/214)	(1.11)	(1.28)	(0.96)	(1.08)	(2/277)				
町内会等参加数	3.23	3.43	4.43	3.43	3.19	0.856	3.08	2.73	3.53	2.73	3.226	1.792	5.285	0.076	0.715
(SD)	(2.89)	(3.19)	(3.59)	(3.22)	(3.04)	(2/215)	(2.64)	(2.44)	(2.71)	(2.74)	(2/280)				
組織団体参加数	1.55	1.40	1.43	1.47	1.24	0.528	1.66	1.43	1.88	1.60	2.256	3.297	0.000	4.165	1.749
(SD)	(1.55)	(1.46)	(1.87)	(1.44)	(1.42)	(2/215)	(1.62)	(1.34)	(1.84)	(1.51)	(2/280)				
NW密度															
①性別 男性	2.55	3.75	3.79	3.71	3.85	0.051	1.63	1.25 ^A	1.67 ^B	2.27 ^C	11.157 ^{***}	125.092 ^{***}	28.393 ^{***}	53.376 ^{***}	17.092 ^{***}
(SD)	(2.35)	(2.80)	(3.45)	(2.96)	(2.18)	(2/215)	(1.36)	(1.29)	(0.99)	(1.86)	(2/280)				
%	38.2%														
女性	4.12	2.86	1.79	2.96	2.86	2.741 [†]	5.08	5.06	5.03	5.22	0.069	86.008 ^{***}	14.675 ^{***}	41.387 ^{***}	29.036 ^{***}
(SD)	(2.87)	(1.81)	(1.76)	(1.86)	(1.60)	(2/215)	(3.16)	(3.12)	(3.31)	(2.92)	(2/280)				
%	61.8%														
同性	4.50	3.75	3.79	3.71	3.85	0.051	5.08	5.06	5.03	5.22	0.069	23.931 ^{***}	2.000	11.880 ^{**}	8.150 ^{**}
(SD)	(3.08)	(2.80)	(3.45)	(2.96)	(2.18)	(2/215)	(3.16)	(3.31)	(3.31)	(2.92)	(2/280)				
%	67.6%														
異性	2.16	2.86	1.79	2.96	2.86	2.741 [†]	1.63	1.25 ^A	1.67 ^B	2.27 ^C	11.157 ^{***}	75.767 ^{***}	1.960	47.730 ^{***}	3.323 [†]
(SD)	(1.68)	(1.80)	(1.76)	(1.86)	(1.60)	(2/215)	(1.36)	(1.29)	(0.99)	(1.86)	(2/280)				
%	32.4%														
②間柄 同居者	1.07	1.32	-	1.00	2.42	-	0.87	-	1.00	2.24	-	36.082 ^{***}	-	-	2.139
(SD)	(0.86)	(0.82)	-	-	(0.79)	-	(0.84)	-	-	(0.54)	-				
%	16.0%														
親類	2.44	2.26	2.86	2.41	1.75	2.911 [†]	2.58	2.70	2.57	2.36	0.517	3.125 [†]	0.077	0.459	2.151
(SD)	(2.03)	(2.04)	(1.75)	(2.10)	(1.85)	(2/215)	(2.02)	(1.96)	(1.76)	(2.61)	(2/280)				
%	36.6%														
職場	0.34	0.48	0.36	0.52	0.41	0.349	0.24	0.34	0.15	0.22	1.812	9.253 ^{**}	0.003	10.872 ^{**}	1.500
(SD)	(0.88)	(1.02)	(0.74)	(1.09)	(0.87)	(2/215)	(0.75)	(0.90)	(0.59)	(0.76)	(2/280)				
%	5.1%														
近所	0.88	0.73	0.64	0.77	0.64	0.273	0.99	1.01	1.00	0.93	0.071	4.900 [*]	1.115	1.889	1.366
(SD)	(1.31)	(1.21)	(0.93)	(1.27)	(1.13)	(2/215)	(1.37)	(1.25)	(1.44)	(1.45)	(2/280)				
%	13.2%														
友人	1.94	1.83	1.71	1.97	1.49	1.032	2.03	2.25	1.98	1.75	0.859	0.987	0.560	0.000	0.507
(SD)	(2.30)	(2.19)	(2.73)	(2.27)	(1.80)	(2/215)	(2.39)	(2.48)	(2.46)	(2.00)	(2/280)				
%	28.1%														
年齢	56.76	57.11	53.59	57.99	55.82	3.199 [*]	56.49	56.43	56.98	55.52	0.827	0.865	1.563	1.162	0.069
(SD)	(7.38)	(7.83)	(14.35)	(7.68)	(5.48)	(2/214)	(7.02)	(6.77)	(7.54)	(6.23)	(2/279)				
④接触頻度	28.30	28.76	30.16	28.27	29.67	0.241	27.94	28.43	28.32	26.61	0.357	0.402	0.304	0.001	0.971
(SD)	(14.16)	(14.84)	(16.74)	(13.70)	(17.21)	(2/207)	(13.64)	(11.85)	(14.43)	(14.78)	(2/276)				
⑤連絡頻度	22.94	20.14	28.20 ^A	20.78	16.45 ^B	3.539 [*]	25.03	24.38	26.56	22.74	1.317	12.32 ^{***}	0.775	9.992 ^{**}	4.168 [*]
(SD)	(15.43)	(15.76)	(18.93)	(14.72)	(16.77)	(2/207)	(14.87)	(14.73)	(14.91)	(14.96)	(2/276)				
⑥被援助度	1.99	1.91	1.97	1.90	1.93	0.353	2.04	2.09	2.02	2.00	1.106	13.633 ^{***}	0.827	7.730 ^{**}	0.840
(平均)	(0.40)	(0.37)	(0.46)	(0.34)	(0.43)	(2/215)	(0.41)	(0.44)	(0.40)	(0.38)	(2/279)				
被援助度1	1.55	1.55	0.79	1.62	1.56	1.229	1.28	1.06	1.30	1.67	2.807 [†]	2.962 [†]	0.522	2.082	0.105
(SD)	(1.91)	(1.91)	(0.89)	(2.02)	(1.75)	(2/215)	(1.57)	(1.36)	(1.51)	(1.98)	(2/280)				
被援助度2	3.98	3.98	3.29	4.03	4.02	0.496	3.96	3.66	4.17	4.05	0.888	0.009	0.205	0.150	0.005
(SD)	(2.70)	(2.80)	(3.34)	(2.69)	(2.59)	(2/215)	(2.96)	(2.82)	(3.07)	(2.98)	(2/280)				
被援助度3	1.06	1.06	1.50	1.00	1.12	0.715	1.47	1.59	1.23	1.76	2.495	7.709 ^{**}	0.033	1.687	3.603 [†]
(SD)	(1.55)	(1.55)	(2.59)	(1.44)	(1.49)	(2/215)	(1.65)	(1.62)	(1.41)	(2.11)	(2/280)				
⑦親密度	2.15	2.12	2.20	2.09	2.18	0.787	2.17	2.02 ^A	2.20 ^B	2.39 ^C	10.410 ^{***}	0.916	1.355	3.072 [†]	4.428 [*]
(平均)	(0.51)	(0.50)	(0.58)	(0.47)	(0.56)	(2/215)	(0.52)	(0.53)	(0.47)	(0.51)	(2/280)				
親密度1	2.03	2.06	1.43	2.07	2.17	0.594	2.01	2.34	1.94	1.51	2.215	0.050	1.604	0.220	1.849
(SD)	(2.37)	(2.30)	(0.48)	(2.18)	(2.68)	(2/215)	(2.43)	(2.62)	(2.21)	(2.49)	(2/280)				
親密度2	1.97	2.07	2.71	2.16	1.71	1.234	1.89	1.71	1.91	2.18	0.933	0.828	3.903 [†]	0.684	1.407
(SD)	(2.23)	(2.43)	(2.79)	(2.66)	(1.59)	(2/215)	(2.07)	(1.61)	(2.17)	(2.56)	(2/280)				
親密度3	2.66	2.46	1.43	2.04	2.82	2.669 [†]	2.81	2.25 ^A	2.85 ^A	3.80 ^B	9.632 ^{***}	3.299 [†]	1.766	3.363 [†]	4.789 [*]
(SD)	(2.15)	(2.07)	(1.34)	(0.17)	(2.22)	(2/215)	(2.19)	(2.25)	(1.77)	(2.58)	(2/280)				
老人モラール	11.80	11.34	9.36 ^A	11.56 ^B	11.28	3.391 [*]	11.80	11.28	11.98	12.40	2.099	2.342	3.368 [†]	1.123	3.864 [†]
(平均)	(3.35)	(3.06)	(3.43)	(2.96)	(3.07)	(2/215)	(3.56)	(3.70)	(3.82)	(3.00)	(2/280)				
ADL(総点)	11.45	11.07	11.50	10.98	11.19	0.513	11.74	11.70	11.72	11.84	0.141	16.338 ^{***}	0.212	8.949	4.394 [*]
(SD)	(1.86)	(2.11)	(1.22)	(2.30)	(1.76)	(2/215)	(1.58)	(0.45)	(0.60)	(0.85)	(2/280)				
年齢	68.57	70.43	72.57	70.53	69.66	3.004 [†]	67.14	67.46	66.41	68.16	2.458	58.157 ^{***}	12.364 ^{***}	53.430 ^{***}	2.861 [†]
(SD)	(5.05)	(4.13)	(5.60)	(4.18)	(3.42)	(2/215)	(5.23)	(5.05)	(5.04)	(5.80)	(2/280)				

* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

表2 高齢者のソーシャル・サポート (居住形態及び性別による分析)

諸変数	全体平均	性					検定:F値(df)	性					検定:F値(df)	男女比較(検定結果:F値)					
		全体	男 独居	夫婦	家族	性 検定:F値(df)		全体	女 独居	夫婦	家族	性 検定:F値(df)		全体	独居	夫婦	家族		
人数	501	218	14	145	59		283	105	123	55									
%		(100)	(6.4)	(66.5)	(27.1)		(100)	(37.1)	(43.5)	(19.4)									
NWサイズ(S:8)	5.67	5.66	4.50	5.59	6.10	1.586	5.67	5.30	5.70	6.33	1.904					0.004	0.848	0.083	0.153
(SD)	(3.15)	(3.14)	(3.39)	(3.22)	(2.83)	(2/215)	(3.16)	(3.03)	(3.19)	(3.31)	(2/280)								
NWサイズ(S:9)	6.67	6.61	5.57	6.67	6.71	0.583	6.71	6.30	6.70	7.49						0.085	0.504	0.004	1.413
(SD)	(3.68)	(3.72)	(4.27)	(3.91)	(3.07)	(2/215)	(3.64)	(3.54)	(3.58)	(3.91)	(2/280)								
サポート																			
①入院時看病	1.83	1.90	1.14	1.94	1.98	3.085 *	1.77	1.50 ^A	1.74 ^B	2.36 ^C	6.203 **					1.022	0.902	1.719	1.572
(SD)	(1.38)	(1.19)	(1.35)	(1.21)	(1.07)	(2/215)	(1.50)	(1.34)	(1.26)	(2.05)	(2/280)								
%(/I)	16.3%																		
②金銭借用	1.48	1.42	1.50	1.37	1.53	0.261	1.53	1.37	1.50	1.91	2.288					0.647	0.076	0.645	1.299
(SD)	(1.49)	(1.43)	(2.44)	(1.24)	(1.57)	(2/215)	(1.54)	(1.51)	(1.27)	(2.01)	(2/280)								
%(/I)	13.2%																		
③仕事上相談	0.48	0.52	0.36	0.53	0.56	0.257	0.44	0.49	0.41	0.42	0.148					0.898	0.194	0.839	0.676
(SD)	(1.01)	(0.95)	(0.74)	(0.97)	(0.97)	(2/215)	(1.04)	(1.06)	(1.12)	(0.85)	(2/280)								
%(/I)	4.3%																		
④心配事相談	1.32	1.11	0.71	1.12	1.19	0.734	1.48	1.45	1.46	1.60	0.313					10.361 **	4.252 *	4.988 *	2.455
(SD)	(1.29)	(1.32)	(0.73)	(1.34)	(1.36)	(2/215)	(1.25)	(1.30)	(1.10)	(1.46)	(2/280)								
%(/I)	11.7%																		
⑤失望への慰め	1.66	1.53	0.86	1.59	1.54	1.627	1.75	1.57 ^A	1.70	2.22 ^B	3.113 *					2.641	3.054 †	0.409	4.022
(SD)	(1.54)	(1.45)	(1.17)	(1.37)	(1.67)	(2/215)	(1.60)	(1.47)	(1.53)	(1.92)	(2/280)								
%(/I)	14.8%																		
⑤留守中の世話	0.99	1.04	0.50	1.10	1.00	2.105	0.96	1.10 ^A	0.97	0.69 ^B	3.683 *					0.734	5.093 *	1.292	2.678
(SD)	(0.98)	(1.07)	(0.65)	(1.12)	(1.00)	(2/215)	(0.90)	(0.96)	(0.78)	(1.02)	(2/280)								
%(/I)	8.8%																		
⑦物品等の借用	0.68	0.58	0.43	0.64	0.46	0.813	0.75	0.89	0.73	0.55	1.510					2.958 †	2.322	0.425	0.155
(SD)	(1.13)	(1.04)	(0.76)	(1.10)	(0.92)	(2/215)	(1.19)	(1.09)	(1.16)	(1.42)	(2/280)								
%(/I)	6.0%																		
⑧飲食等同伴	1.81	1.67	1.57	1.77	1.42	0.716	1.92	2.01	1.81	2.00	0.374					2.299	0.636	0.031	2.890 †
(SD)	(1.88)	(1.91)	(2.06)	(2.03)	(1.53)	(2/215)	(1.86)	(1.91)	(1.72)	(2.06)	(2/280)								
%(/I)	16.1%																		
⑨:①~⑧以外	0.99	0.95	1.07	1.08 ^A	0.61 ^B	3.157 *	1.02	1.00	1.01	1.11	0.159					0.400	0.038	0.243	5.043 *
(SD)	(1.24)	(1.24)	(0.93)	(1.27)	(1.13)	(2/215)	(1.24)	(1.28)	(1.13)	(1.40)	(2/280)								
%(/I)	8.8%																		
I:総計①~⑨	11.24	10.72	8.14	11.14	10.29	1.473	11.64	11.37	11.33	12.85	0.930					2.085	2.313	0.044	4.109 *
(SD)	(7.07)	(6.66)	(7.10)	(7.08)	(5.30)	(2/215)	(7.36)	(7.51)	(6.92)	(8.03)	(2/280)								
100%																			
道具的サポート4	4.98	4.94	3.57	5.06	4.97	1.443	5.02	4.86	4.94	5.51	0.572					0.066	1.533	0.090	0.517
(SD)	(3.54)	(3.13)	(3.37)	(3.26)	(2.70)	(2/215)	(3.83)	(3.68)	(3.28)	(5.08)	(2/280)								
%(/II)	48.6%																		
情緒的サポート3	3.45	3.17	1.93	3.23	3.29	1.762	3.67	3.50	3.57	4.24	1.315					4.242 *	3.924 *	0.999	3.496 †
(SD)	(2.76)	(2.56)	(1.59)	(2.59)	(2.65)	(2/215)	(2.88)	(2.91)	(2.89)	(2.77)	(2/280)								
%(/II)	33.7%																		
コンパニオンシップ	1.81	1.67	1.57	1.77	1.42	0.716	1.92	2.01	1.81	2.00	0.374					2.299	0.636	0.031	2.890 †
(SD)	(1.88)	(1.91)	(2.06)	(2.03)	(1.53)	(2/215)	(1.86)	(1.91)	(1.72)	(2.06)	(2/280)								
%(/II)	17.7%																		
II:総計①~⑧	10.25	9.77	7.07	10.06	9.68	1.546	10.61	10.37	10.32	11.75	1.546					2.000	2.704	0.102	2.871 †
(SD)	(6.66)	(6.11)	(6.34)	(6.41)	(5.15)	(2/215)	(7.05)	(7.14)	(6.66)	(7.71)	(2/280)								
100%																			

* p < .05, ** p < .01, *** p < .001

1. 回答者の属性と心身の状態

回答した501人の高齢者の男女比は、男性43.5%、女性56.5%。全体で見ると最多の居住形態は夫婦世帯で53.5%、残りは家族世帯と独居が22.8%と23.8%で、ほぼ同じくらいを占めている。ただし独居者は、女性で37.1%、男性で6.4%と、男性の方が相対的に少ない。全体の平均年齢は68.57歳であるが、男女別平均で見ると男性の方が3歳ほど年齢が高い。ちなみに女性の方がADLがやや高く、元気な高齢者がより混じっているといえるが、老人モラルには有意な性差は見られない。

2. ネットワークの全体像

全体で見ると、ネットワーク構成員は平均7人弱である。最も多いのは親類で平均36.6%、すなわちネットワークの三分の一あまりを占めている。次いで友人が29.1%、同居者16.0%、近所13.2%、職場5.1%と少なくなる。ネットワーク構成員の平均年齢は56.76歳で、被援助度は、平均値で見ると相手とほぼ等しい。

サポートは、最も多いもので入院時の看病1.83人、続いて飲食1.81人、慰め1.66人、金銭1.48人、心配事の相談1.32人、留守宅の世話0.99人、借用0.88人、仕事の相談0.48人である。ちなみに、その他は0.99人挙げられている。サポートのカテゴリーごとに単純加算した合計は、道具的サポートが4.98人、情緒的サポートが3.45人、コンパニオンシップが1.81人、総合計で10.25人である。

3. 男女二群間の単純比較

性別ごとに比較していくと、ネットワークのサイズ、親類や友人の割合、構成員の年齢、接触頻度、親密度に有意差はみられない。近所づきあいや町内会等の参加数、組織団体参加数にも有意な差はない。

しかし被援助度と手紙や電話による連絡頻度、ネットワークの満足度は、女性の方が高い。また構成員との関係を見ると、女性の方が近所の人との関係が多く、男性の方が職場関係者が多い。男女とも異性者より同性者のネットワーク構成員が多いが、女性の方が同性割合が高く、男性の方が異性割合が高い。

サポート項目ごとで見れば、相談のサポートは女性の方が多い。サポートカテゴリーでみると、情緒的サポートが女性でより多い。

4. 性別ごとに見た居住形態別比較

男女ともネットワークサイズについては、居住形態間の有意差はみられない。

しかし男性のネットワークをみると、独居より夫婦でのモラルが高く、ネットワーク構成員の年齢が高く、また独居より家族で連絡頻度が多い。

女性のネットワークを見ると、独居より夫婦、それよりさらに家族で男性割合や異性割合が高まり、ネットワークの親密度も高い。

サポート項目では、女性で居住形態の差が見られる。入院時の看病では独居より夫婦、さらにそれより家族の女性の方が、サポートが多い。慰めは独居より家族、逆に留守宅の世話は家族より独居の女性が多い。

5. 各居住形態ごとの性別比較

いずれの居住形態でも、男女のネットワークサイズに有意差は見られない。

しかし独居者の男女を比較すると、男性独居者のほうが女性独居者より、町内会参加数が多く、男性割合が高く、本人の年齢が高い。女性独居者の方が、女性割合が高い。

夫婦居住者の男女を比較すると、男性の夫婦者の方が、男性割合、異性割合、職場の人の割合、年齢が高い。女性の夫婦者の方が、ネットワーク満足度が高く、組織団体参加数も多く、女性や同性の割合が高く、連絡頻度と援助度が高い。

家族同居者の男女を比べると、男性の家族者では、男性割合が高く、女性の家族者では女性や同性の割合が高く、連絡頻度と親密度とADLが高い。

サポート項目で見ると、独居と夫婦世帯の高齢者で、男性より女性の方が相談のサポートが多い。家族世帯の高齢者では、女性の方が慰めのサポートが多い。留守宅の世話では、独居の男性より女性の方がサポートが多い。サポートカテゴリーでみると、独居の高齢者で、男性より女性の方がサポートが多い。

その他のサポートも含めた合計人数でみると、家族世帯の高齢者で、女性の方が男性より、サポート人数が多い。

【考 察】

量的側面すなわちネットワークサイズについては、性別で見ても居住形態別に見ても有意差は見いだせない。総じて6人程度である。

同地域で行われた中年女性の調査では、同様の尋ね方で集計されたネットワーク人数は、同居家族1.03人、家族外6.02人、計7.05人である(野辺ら、1994)。今回の男女高齢者の方が、中年女性よりおよそ1人分くらい少ないといえよう。

野口(1991)は、東京都板橋区の65歳以上の男女のランダムサンプリング、層化二段無作為抽出法で、420人のデータを得ている。情緒的と手段的なサポート人数を合計したうえで、ポジティブなネットワーク人数からネガティブなネットワーク人数を引くという独自の工夫をしている。その結果、男性高齢者で6.23人、女性高齢者で7.67人のネットワーク構成員を報告している。首都圏で行われているが、本研究とおおむね類似の結果といえるだろう。

林・上野・山本(1996)は、二カ所の老健施設入居高齢者28名、在宅高齢者115名のデータを得ている。心身不調・人間関係・家族や友人・経済問題。人生の悩みの5項目の相談内容をあげて、それぞれの「相談相手」の人数を調べている。彼らの集計した表をもとに、延べ人数を合計して回答者数で割ってみよう。老健群では施設内・施設外併せて6.57人、在宅群では10.1人となる。著者の林らは地方の小都市にある大学に勤務しているが、調査地域とサンプリング方法は明記されていない。我々はサポート次元を複数設定しているのに対して、彼らは相談のサポートに特化

して、複数の話題を設けて聞いている。そのため一定の相談相手が、どの話題からも重複してカウントされている可能性があり、特に在宅者では多重性が高く出て、我々のネットワークサイズより大きな数字になったのかもしれない。健康に問題を抱えた老健施設入居者の場合は、社会生活により支障があり、相対的に資源に乏しいため、より小さい数字になったものと推測される。

藤原・来嶋・神山・黒川(1987)では、広島市の独居高齢者から、等間隔抽出法を用いて、416件の回答を得ている。子供の数と「頼りになる人」の数を尋ねている。子供がいる者は78.8%、頼りになる人がある者は85.1%となっている。ちなみに挙げられた子供の数を回答者で割ってみると1.91人、同様に頼りになる人では2.27人となる。子供と頼りになる人を足してネットワークとみなしても、合計4.18人であり、今回の独居者の持つネットワークと比べて、かなり小さい数字である。「頼りになる」という漠然とした聞き方が、ちょっとした頼み事の応じ手よりも、深刻な関係を連想させたのかも知れない。

高齢者対象ではないが、在日留學生のネットワークを「日本で大切な関わりのある人」と尋ねた Tanaka, Takai, Kohyama, Fujihara and Minami (1994)では、リストアップする人数を3人から10人と限定しているが、平均7.76人である。大学生の場合は、古川・井上・石井・藤原・福田(1983)の大学新入生の調査がある。半年経過時点で、新環境から7人程度、旧環境から6人程度のネットワーク構成員が認められる。入学以降にできた新環境の者を、身近なネットワークと考えれば、留學生の日本でのネットワークの場合と、類似の規模といえよう。

以上から、有形無形の手助けの担い手の規模を大雑把に見積もるなら、一般的にみて6~7人前後の身近な支援者に囲まれているものと推測されよう。高齢者でも、社会生活に大きな支障が生じる事情がない限りは、類似の結果となるのかもしれない。

次に、性差と居住形態の差について見ていく。今回、満足度などのネットワークの質的側面や、連絡頻度などのネットワークの密さ、そしてネットワークメンバーの構成においては、性差や居住形態の有意差が見られた。なお以下では、ネットワークの指標に加えて、ネットワーク関連項目も、本人のネットワークの特徴の一端を担うものとして論じていく。

まず性差は、ネットワークのサイズ自体には見られないが、質には性差がみられる。女性のほうが、連絡頻度が高く、被援助度と満足度の高いネットワークを持っており、相談のサポートを含む、情緒的サポートも多い。この点では、男性よりもより密で支援的なつながりに囲まれていると言える。世代を問わず、女性の方がより活発に対人関係を営み、多くの支援を得ていることは、従来も指摘されているところである。藤原ら(1987)の独居高齢者の調査でも、ネットワークサイズは女性の方が大きいことが報告されている。

ソーシャル・サポートの機能的な利点として、ストレスへの緩衝効果を発揮して、精神的健康を高めることはよく知られているが、女性がより多くのソーシャル・サポートを得ていることは、同時に精神的健康の維持における有利さの指摘とも通じる。野口(1991)の高齢者調査では、男

性と比べて、ネットワークとモラルとの関連は女性に顕著であり、幸福感との関わりも女性の方がより強い。男性はサポートによって自尊心が傷つく可能性がより高く、サポートのネガティブな効果がポジティブな効果を相殺する可能性が指摘されている。サポート獲得に男性がより熱心でない可能性について、一つの解釈を提供するものといえよう。

ネットワークの構成面での性差をみってみる。今回、ネットワークの構成に関する女性は男性よりも同性主体のネットワークを持っており、6.71人のうち5.08人(75.7%)が女性である。特に家族、夫婦、独居と世帯人数が減っていくと、異性である男性の構成員が一層減って、同性に閉じたネットワークに近づく傾向がある。独居女性の同性割合は、6.30人のうちの5.06人(80.3%)に達する。それに比べて男性のネットワークは、6.61人のうち3.75人(56.7%)が男性ではあるが、居住形態の有意差もなく、女性という異性の存在感は総じて大きい。女性は家族や夫がいると、他の男性とつながりやすいが、一人だと女性との交友に落ち着いていくようである。独居、夫婦、家族の順にネットワークの親密度が高くなることから、女性は身近な人との生活を基盤に、心理的なつながりを広げていくのかもしれない。男性には、居住形態によるネットワーク親密度の有意差は見られない。特に夫婦の女性の方は、夫婦の男性に比べて、満足度、組織・団体参加数、連絡頻度、被援助度とも、より大きな値を示す。家族の女性も、連絡頻度、親密度で、家族の男性より高い値を示す。

居住形態別の分析を見てみよう。独居世帯においていくつか興味深い結果が見られる。女性の独居者は、家族と住む女性より慰めのサポートが少ないが、逆に留守宅のことを頼める相手は、家族の者より多い。独居では留守の機会も多いと思われ、留守宅の世話を頼む必要性が増すためと推測されるが、男性では同様の結果は得られていない。

男性独居者は、女性独居者の約半数の相談相手しか持っていない。夫婦世帯の高齢者では、女性の方が男性より相談相手が多いことには変わりはないが、二倍までは差は開かない。家族世帯になると、相談サポートの有意な男女差は見られない。男性は同居の人を相談相手にしたり、あるいは同居者の縁で相談相手を得たりしているのかもしれない。

独居男性の町内会参加数は、独居女性を有意に上回っている。また独居男性の連絡頻度は、家族の男性より高くなっている。ここからは、男性者が独居になったとき、活発に人とつながろうとする様子を読みとれる。男性高齢者は、家族や夫婦世帯では同居の女性に頼りがちな対人関係を、独居になった折には自ら開拓し始めるのだと解釈することもできよう。だがこうした量的拡大に比して、質的な充実は伴っているといえるだろうか。独居男性は、前述のように相談サポートを含む情緒的サポートや、留守宅の世話のサポート人数が独居女性より少ない。さらに独居男性のモラルは、夫婦で暮らす男性より低い。ということは、ADL すなわち体全体の調子は他の居住形態の男性と大差なくとも、心理的な困難が案じられる状況とも読める。独居男性が活発な町内会参加に努め、独居女性に似た広がりのあるネットワークを持ちながらも、心に届く相談

相手はそう多くなく、精神的健康が案じられるという結果は、示唆的である。

野口(1991)では、単身者の情緒的サポートの少なさが指摘されている。藤原ら(1987)の研究では、独居高齢者では、「子供の人数」と「頼りになる人の数」がともに孤独感の低下と関連しており、関連の程度は後者の方がより大きいという。こうした文脈からは、心身の健康の維持のために、特に独居になった折りには、家族以外の人を視野に入れての、ネットワークの開拓が望まれる。

古谷野ら(1998)は、日本の高齢者の対人関係には、家族中心性が強いことを指摘した上で、家族からのサポートが得られない場合に、より遠い縁者や他人へと順次サポートのニーズを補っていく「階層的補完モデル」を、地域生活者たる高齢者のデータを用いて検討している。サポート提供者は彼らのデータでも家族が中心で、同居家族がいればサポートの7~9前後は同居家族から提供されており、配偶者がいれば5~9割近くは配偶者のサポートとして報告されている。近隣や友人の機能は、「情緒的一体感」の分野では高いが、「介護の可能性」を想定した道具的なサポート源としてはあまり認められていない。結果的として、優位性の完全な序列は確認されなかった。身近な家族がいれば道具的サポートは家族に集中する傾向があるものの、情緒的なサポートなら、他の関係からも貢献できる余地があることが示唆されている。

今回のデータでは、「入院の世話」「借金」「仕事の相談」「心配事を聞く」「慰め」「留守宅の世話」「物を借りる」「散歩や食事」「大切に思う」といった、手段的サポートも情緒的サポートもコンパニオンシップも含んだサポート提供者群を、ネットワーク構成員とみなしている。親類や近所などの、古谷野らの研究で序列下位者とされた者の割合が高いのは、些末なサポートまでを範疇としたためと思われる。裾野の広いサポート定義を用いたために、家族中心性をより離れた、もっと緩やかなネットワークが想定されたのであろう。

今回の援助度のデータから見ると、平均年齢が50代の援助者との間で、援助度はほぼ等しいことも興味深い結果である。高齢援助の供給者は、同時に高齢者からの援助の受け取り手でもあり、かなり互恵的な関係が確認された。今回は援助を頼める相手をリストアップしてから、その人達との援助度を尋ねているので、援助を授ける一方の相手との関係は、ここには含まれていない。それを考えると、この高齢者らの援助は、むしろ供給に傾く可能性すらあるかもしれない。高齢者を一方的な援助の受け手と見なす高齢者観は、今回の対象者には当てはまらない。むしろ社会における、積極的なサポート交換の担い手とみなしてよいだろう。

女性の高齢者には、恵まれた人的資源を生かして生活を充実させていくことを励まし、また男性の高齢者や独居者には、サポートの大事さに気づいて積極的なネットワーク開拓と維持に心がけてもらうのが望ましかろう。加齢への適応方略は、性別や居住形態のみならず、生活パターンや対人関係の特徴によっても異なるので、個人差の中で無理なく機能する、きめ細かい介入方略と現実的なステップが求められる。田中・田中・兵藤(1996)が提案しているような、記入式の

個人のサポート・ネットワークのアセスメントから、介入の方策を具体化していくのは一案であろう。ただ一義的には、高齢者のサポート供給の必要量を増す介入策を想定するとしても、高齢者のサポート供給能力が高いことから、同時に周囲の人との豊かな関係に発展する可能性も十分考えられる。高齢者の対人関係を、家族関係に閉じたものにせず、より広域へと互恵的に拡大していくことは、高齢化社会での豊かな関係性育成に通じていく道と言えるだろう。

注

1. 本研究の一部は、平成7-9年度文部省科学研究費補助金基盤研究B(代表・田中宏二)によって行われた。
2. 本研究の一部は、1998年日本社会心理学会第39回大会にて、「高齢者のソーシャル・ネットワークの構造(1):性別と居住形態による差 田中共子・兵藤好美・田中宏二」として発表された。

引用文献

- 藤原武弘・来嶋和美・神山貴弥・黒川正流 1987 独居老人の孤独感と社会的ネットワークについての調査的研究 広島大学総合科学部紀要Ⅲ 11, 43-52
- 野口裕二 1991 高齢者のソーシャルサポート:その概念と測定 老年社会学 34, 34-48
- 野邊政雄・田中宏二 1994 地方都市における既婚女性の社会的ネットワークの構造 社会心理学研究 10, 217-227
- 野邊政雄・田中宏二・兵藤好美 1996 高齢女性の社会的支援ネットワーク特性と精神的健康調査の基礎分析(その1) 岡山大学教育学部研究集録 102, 55-72
- 林智一・上野徳美・山本義史 1996 老人保健施設におけるソーシャル・サポートに関する研究(1)ーソーシャル・サポートと生活満足度・生きがい・幸福感:在宅高齢者との比較から 日本健康心理学会第9回大会発表論文集 142-143
- 古川雅文・井上弥・石井眞治・藤原武弘・福田廣 1983 環境移行に伴う対人関係の認知についての微視発生的研究 心理学研究 53, 330-336
- 田中宏二・田中共子・兵藤好美 1996 ソーシャル・サポート・ネットワークの介入研究の視点と方法論 岡山大学教育学部研究集録 102, 1-13
- Tanaka, T., Takai, J., Kohyama, T., Fujihata, T. & Minami, H. 1994 Social networks of international students in Japan: perceived social support and relationship satisfaction. *Journal of Experimental Social Psychology*. 33, 213-223